

# イギリス夏季短期 英語研修報告書

ロンドン大学アジア・アフリカ学院

2013年8月18日～2013年9月8日

SOAS

# 目次

研修全体の概要	・・・	1
研修先について	・・・	2
研修先の授業		
English Language Classes for TMU Students	・・・	3
Environment and Development	・・・	4
Global Business Studies	・・・	5
Introduction to the Media	・・・	6
English Language Course	・・・	8
Intensive Reading & Writing Course	・・・	10
研修中の生活・環境	・・・	11
グリニッジ研修	・・・	12
Our Favorite Places～ぜひ訪れて欲しい場所をご紹介します♡～	・・・	14
感想		
安次嶺 良太	・・・	16
榎本 大地	・・・	17
佐原 直樹	・・・	18
小澤 英賢	・・・	19
清水 貴勢	・・・	20
筒井 彩乃	・・・	21
ハイリス	・・・	22
藤井 優美	・・・	23
藤田 駿	・・・	24
平岩 佳奈	・・・	25

## 研修全体の概要

本研修は英語によるコミュニケーション能力を磨き、異文化適応能力と国際的視野の習得を目的としている。渡航前の事前研修、海外大学（SOAS:ロンドン大学東洋アフリカ研究所）での3週間の英語コースの受講、現地での課外活動、帰国後の効果測定と事前研修で構成された総合的なプログラムである。

4月下旬から説明会、募集があり、その後書類審査、口頭試験によって参加者が選考される。この選考では英語能力が重視されるため、ある程度の英語能力が必要となる。

6月からは説明会、事前研修が順次行われる。事前研修では英語学習、異文化理解に関する講義やネイティブの教授による模擬授業など、現地での学習をサポートする研修が行われる。

そして8月中旬からSOASでの3週間の英語コースを受講する。この英語コースはいくつかのコースにわかれており、事前に自分に合ったコースを選ぶことができる。また首都大生はこの英語コースとは別に、主にリスニング、スピーキング能力の向上を目的とした補講もある。時間割はコースによって異なるが、授業以外の時間は自主学習や観光、SOASが企画したイベントに参加するなど自由に使うことができる。授業のない土日も同様に自由に時間を使うことができる。

帰国後は効果測定としてIELTSを受験する。また事後研修としてテーマ学習、自己観察レポートの提出及びテーマ学習の発表を行う。

### 2013年度日程

日時	実施項目	活動内容など
4/18	募集説明会	国際センターにて実施。
4/26～5/8	申込み受付	
5/14	英語力試験	英語試験スコアを持たない学生のみ実施。
5月下旬	選考試験	書類審査・口頭試験を実施。
5/31	参加者発表	
6/3	交流会	研修先のプログラム紹介。
6/5	参加者説明会①	SOAS研修全般・事務手続きについて。
6/13	事前研修①【英語学習】	神田明延先生による講義。
6/14	参加者説明会②	渡航手続きについて。
6/20	事前研修②【模擬授業】	ロバート・ブロック先生による講義。
7/10	事前研修③【文化接触】	小柳志津先生による講義。
7/11	事前研修④【文化接触】	小柳志津先生による講義
8/7	参加者説明会③	渡航前確認。
8/18	渡航日	午前：成田空港発 午後：ロンドン着。
8/19～9/6	【SOAS研修】	3週間の英語コース受講
9/7	帰国日	午後：ヒースロー空港発 翌午前：成田空港着。
9/21	IELTS学内試験	IELTS受験。
9/24	研修報告会	テーマ学習発表
10月上旬	報告書作成	

# ロンドン大学東洋アフリカ研究所 School of Oriental and African Studies (SOAS) について

---

## ◎学校概要◎



1916年に創立されたロンドン大学の一部で、国内で唯一、世界でも最大規模のアジアとアフリカ研究を専門とするカレッジです。校舎は、ロンドン市内中心部に位置しており、約5500人の学生が学んでいます。特にアーツ&人文科学と言語&文化における研究レベルは非常に高く、国内でもトップレベルの研究機関と評価されています。サマーコースは中級下～レベルを対象に3つの日程で行われており、英語スキルのほか、ワールド・アート、世界文学、国際関係論、環境&開発学、グローバル・ビジネス、メディアなどの専門科目コースがあり、英語の授業も含まれます。また、SOAS 全体学生の約50%が留学生からなり、約150カ国からの留学生が勉強する、国際色豊かな大学です。ちなみに、日本人留学生の割合は約20%

となっており、中国や韓国とともにメインの留学生となっています。

---

## ◎キャンパス◎

SOASは、私たちが通学したラッセルスクエアキャンパス（以下キャンパス）とキングズクロス駅にほど近いパーノンスクエアキャンパスの2つのメインキャンパスから構成されています。キャンパスは、ラッセルスクエア駅からは徒歩5分ほど、真裏には大英博物館があり、ロンドンの中心部に位置するとても交通の便がよいところです。私たちが滞在した Dinwiddy House からは徒歩30分ほど、速い人だと約25分で着きます。運動にはもってこいではないでしょうか？遅刻しそうな TMU の学生の中には、バスやレンタル自転車で最寄りまで行ってそこから歩いていった（走っていった）という人もいました（笑）キャンパスは小さく、TMU でいうと1号館から6号館くらいの大きさです。

---

## ◎施設・設備◎



まず、大学の図書館は、イギリスのナショナルコレクションとなる膨大な書籍を誇ります。自習スペースはもちろんのこと、プレゼン等の共同作業を行えるコモンスペースや、インターネットで調べものができるパソコンも設置されています。キャンパス内は、一部教室を除きほとんどの場所で Wi-Fi を使うことができるため、館内でも自分のパソコンを使うこともできます。研修期間中は、書籍を借りることもできます。また、学食や購買の他に、地下には談話室があり、ちょっとしたバーもあるので、そこでお酒も嗜めます。昼休みなどの息抜きにはピッタリの落ち着いた空間です。お昼には、宗教団体の一員らしきお兄さんやおじいさんが“Free meal”を提供してくれるため、毎日長蛇の列が。味はというと…日によりけり人によりけり。一応“Donation box”も設けられているので、おいしかったら募金しましょう（笑）

これが噂の Free meal(まずい日)

---

## ◎周辺環境◎

SOASは、ロンドン市内の中でも中心部に位置しているため、東京で例えると、新宿や渋谷にキャンパスがあると考えるとわかりやすいと思います。歩いていける距離にも、大英博物館や大型ショッピングセンターがあるため、放課後授業終わりにふらっと行ってみるのも良いかもしれません。もちろん、観光にももってこいです。ロンドンの地下鉄網やバス網は、日本に負けず劣らず発展しているため、ロンドン市内ならばほとんど気軽に行けます。TMU の学生は、放課後、地下鉄に乗ってショッピングに行ったり、近場でバーに行ったり、ミュージカルを見に行ったり、はたまた疲れ果てて寮に直帰するなど、それぞれ思い思いに楽しんでいました。

---

# English Language Classes for TMU Students

システムデザイン学部経営システムデザインコース二年 榎本大地

---

我々は SOAS にて自分が選択したコースに所属し、講義を受けたわけですが、もう一つ首都大生の 10 名のみを対象とした補講クラスを受講しなければなりません。これは各々のコースの内容とは別に英語に関する能力の向上を図るもので、研修前半の 6 日間にわたって実施されました。基本的には朝の 1 時間とそれぞれのコースの講義が終わった夕方に 1 時間という二部構成での講義で、朝の方については開始が朝の 8 時でした。SOAS が滞在先の Dinwiddy House から歩いて 30 分近くかかることもあり、毎日勉強に観光にと疲れている中での早起きに苦戦する人も続出しました。

このクラスの担当講師は朝の分が Sophie で、夕方の部が Jan でした。どちらもとても優しく、かつパワフルな女性で皆にとっても親切にしてくださいました。

授業では何をするのかというと、まず朝の部では先生の提示するトピックについてペアないしは全体でディスカッションをした後、そのトピックに関する映像のレクチャーを見てメモをとり、またわかったことについて少し話し合います。そして午後の部では、朝のレクチャーをもとに、より踏み込んだディスカッションなどをするといった流れでした。このレクチャーがどれも非常に難しい内容で、自分は聞きながらひたすら苦悩していたのもいい思い出です(笑)

さらにこの補講クラスの最後の方では、「どのように子供に環境問題を教育するか」というテーマでグループに分かれプレゼンテーションをしたり、「愛とお金はどちらが重要か」といった哲学的な議題についてディベートをしたりもしました。

このクラスではスピーキング、つまり話すことに焦点が当てられており、上記のディスカッション、プレゼン、ディベートなどは「話す」能力の訓練という訳です。個人的な感想ですが、この講義によって最初はダメダメだった自分も少しずつ言いたい自分の意見が伝えられるようになった気がします。

時間的には非常にタイトなスケジュールで、体力的にもなかなか厳しいこの補講クラスでしたが、これを通して全員の英語力が磨かれ、さらには皆の距離がより縮まったと思います。

---

# Environment and Development

理工学系物理学コース一年 清水貴勢

---

## 1. 得られたこと

SOASでのコースを首都大での教養科目程度に捉えていましたが、いい意味で裏切られることとなりました。このコースを通して何を得られたか。簡単に挙げられるのは、持続可能な発展への関心、環境問題に対する多数の視点です。

授業を振り返ってみると、この授業のテーマは”Sustainable Development”（持続可能な発展）であったと言えます。僕は最初、Environment という文字だけを見て、自分の専攻である物理学に最も近いだろうと判断しこのコースを選びました。しかし、このコースは環境問題をどう解決するかということに終始するものではありませんでした。もちろん環境問題は取り上げられますが、そこには常に「発展」という視点がありました。発展が持続可能という面で問題を生む可能性については、簡単に想像できると思います。例えば、紙製品は森林資源を必要とします。森林伐採後ほうっておけば、将来の世代が同じ森林を利用することはできなくなります。この例からも、「持続可能な発展」は「公然の秘密」と同じようにそれ自体矛盾している言葉、概念であることが分かります。このような関係を授業では”oxymoron”（矛盾語法）という言葉を用いて取り上げ、環境を維持しつつ発展することの難しさを説いていました。そしてどのように「持続可能な発展」を実現していくか、ということが、このコースの主なテーマでした。授業を終えて、「持続可能な発展」に対する関心は格段に大きくなったと感じています。

また、授業では環境問題に対する様々な視点も得られます。例えば、各宗教が持つ、環境に対する考え方と歴史的な影響。また、環境問題を引き起こしたのは男性的な考え方であるという”Ecofeminism”。他にも「持続可能な発展」を含めたくさんの興味深い考え方が授業で紹介されます。それらの考え方を学ぶうち、自分の中に環境問題に対する様々な視点を得られていったように感じます。

## 2. 授業の形式

授業はLecture(講義)を担当する先生と、英語のフォローをしながらLectureの内容を復習するという授業を担当する先生の二人で進められます。Lecture担当の先生は、比較的ゆっくり喋るという以外、基本的に英語面での生徒への考慮はしていないように感じました。

ただ、英語担当の先生は生徒と共にLectureを受けノートをとっています。復習の授業はそのノートをもとに行われるので、聞き取れない部分があっても復習の授業でなんとかLectureの内容を理解することができました。

## 3. まとめ

全体としては、授業の内容はとても難しかったと個人的に感じています。また参加している各国の学生は見識があり、意欲もありました。自分は語学の面で苦勞している上、授業の難度も高いため、終始苦しい思いをしていたとさえ思えます。しかし、だからこそ得られたものは大きいと感じます。心から勧められるコースです。

## 1. 授業の形式

このコースは **Lecture, seminar, case study** を担当するビジネスの先生と **Preview, Review** を担当する英語の先生の 2 人によって行われます。全体の流れとしては、1 つのトピックに関して **Preview→Lecture→Review→Seminar→Case study** のサイクルで進みます。

まず **Preview** で **Lecture** の内容をより理解しやすくするためのトピックについて授業をします。このとき専門用語や背景知識などは先生が説明してくれるため、ビジネスの知識がない人でも大丈夫です。次に **Lecture** でビジネスの先生による講義を 1 時間聴き、ノートをとります。そして **Review** では自分でとったノートを用いて講義で先生が何を述べていたのかをクラス全体で確認し合います。その後 **seminar** や **case study** では **Lecture** で学習したことをもとにディスカッションをして学んでいきます。このサイクルを 5 つのトピックに関して行い、最後にビジネスに関するプレゼンテーションをします。

## 2. 得られたこと

このコースで得られたものは非常に多かったと思います。

まず英語の面では、リスニング能力が非常につきました。ビジネスの先生は私たちが第二言語学習者ということは考えず、ネイティブが話す速度で話します。それを 1 時間聞きながらノートをとるのはとても大変でしたが、徐々に聞き取れる単語も増え、ノートも取れるようになりました。またリスニング能力以外にも、**seminar** や **case study** では自分の意見を発言する機会が多く、スピーキングの能力も向上させることができます。

また英語以外の能力も身につけることができました。私のクラスは 10 人程度の少人数であったため、発言する機会が多く、積極性や主体性を養うことができました。また **seminar** や **case study** では論理的思考力や状況分析力などを鍛える良いトレーニングになりました。またプレゼンテーションもとても貴重な経験になりました。

そしてもちろん、ビジネスの知識も身につけることができます。ビジネスを専攻していない人だけでなく、ビジネスを専攻している人でも新たに得られることは多いと思います。

## 3. まとめ

このコースは英語を学ぶコースではなく、英語を用いて学ぶコースです。語学学校のような授業ではなく大学の授業に近いです。そのため単に語学力を伸ばしたい人にはあまり向いていないかもしれません。しかし交換留学を考えている人、海外の大学の授業を体感したい人には最適だと思います。内容はハードですが非常に力がつくので、興味のある方はぜひ受講してみてください。

# Introduction to the Media

都市教養学部人文社会系 教育学コース 2年 藤井優美

## コース内容(SOAS のパンフレットより一部抜粋・和訳)

このコースは、教室での授業と、ロンドンでのドキュメント制作の体験を織り交ぜたものです。このコースでは、メディアの企画・制作についての理論と実践の両面での見識を深めます。授業とプロジェクト企画を通し、様々なマスメディアについて学び、それらが社会に与える影響や、私たちが利用し必要とする情報がどのように伝達されるのかについて学習します。授業で理論を学んだ後、グループで短いドキュメンタリーを制作・編集・上映することで、授業で学んだことを実践に生かします。このコースには授業の理論を理解することを助ける目的である英語の学習も含まれており、英語の会話力やディスカッション能力、またメディアに関するボキャブラリーを広げることを目指しています。

コース全体を通して、6つのトピックを扱います。

1.Documentary 2.Broadcast Media 3. Advertising 4.News 5.Film 6.New Media

授業は Lecture を中心に進みます。Lecture では、トピックに関係する Youtube の動画や DVD を見ながら、先生が講義をしてくれます。いかに要点をまとめて先生の話を取るとの取捨が重要になってきます。

Lecture の前には Lecture Preview があり、Lecture で学ぶ内容のテキストを読んでディスカッションをしたり、用語の予習をしたりします。

Lecture Review では、Lecture の要点を質問した項目をもとに、講義内容についてディスカッションをしたり、Lecture に出てきた専門的な用語の意味を確認します。

Tutorial や Case Study では、Lecture についての質問をしたり、Lecture の内容に関連した映像を見て、内容を深めます。

Project Work は、パソコンを使って映像や音声の編集方法を学び、実際にドキュメンタリーを制作する時間です。

## 授業を受けての感想

このコースでの学習は、最初は私にとってとても難しいものでした。

Lecture で先生の話していることについていけず十分にノートがとれなかったり、見せられた映像が何を意味し、どのように批判的な目で分析すれば良いのかがわからず、自分の意見をうまく述べるができなかったり。

特に強く感じたのは、他国の政治や社会体制など、メディアの扱う内容についての知識がとても薄かったということです。知識がなければ、それがどのように伝えられているのか、批判的に見ることはできず、今まで無関心でいたということの恐ろしさに気付かされました。

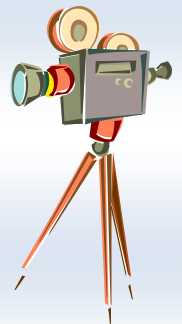
このコースを選択したことで、いままで学んだことのない新しい知識を得、たくさんの驚きや興味に出会うことができました。またドキュメンタリー制作を通し、インタビューやナレーションなど、普段なかなかできない経験をすることができたことは、大きな成果だったと思います。

## 授業で作成したドキュメンタリー作品

### 「Multiethnicity in London」

ロンドンには、様々な人種の人たちが生活をしています。わたしたちは、ロンドンの多民族性に注目し、ロンドンにいる人々がそのことをどう思っているのかインタビューをし、ドキュメンタリーを作成しました。

ロンドンで行われる、カリビアンカルチャーを祝うカーニバルやチャイナタウンなど、様々な場所に出かけてインタビュー・撮影を行いました。



# English Language Skills course

理工学系生命科学コース一年 安次嶺良太

## コース内容

このコースでは、**Reading** , **Writing** , **Speaking** , **Listening** の四項目の全てを学びます。時間割は他のコースに比べて規則的で朝は9時から始まり12時までの二時間は、**Reading** , **Writing** の二項目を学びます。その後にお昼休みが一時間あり午後の授業は13時から15時までの二時間で、残りの**Speaking** , **Listening** をやります。午前と午後で先生は異なりますがどちらの先生も面白く優しい方たちなので良かったです。授業形式としては日本のように机が整然と並んでいて授業を受けるのではなく、生徒が座る席が円卓上に並んでいます。そのことで生徒同士、生徒と先生とのコミュニケーションが取りやすいようになっていました。クラスの数構成は日本人が10人、韓国人が1人、中国人1人の合計12人でした。正直、日本人の多さには驚きましたがクラスの中では英語で会話するので相手が日本人かどうかは気になりませんでした。授業全体としては今まで知らなかったようなことに出会いとても勉強になります。また二人組でのパートナー練習が多いです。最初はお互い気まずそうにして話が進まないこともありましたが日が経つに連れて緊張が取れて会話できるようになりました。私自身は実践できなかつたのですが、同じペアの人ではなく多くの人と話すことが大切だと感じました。その理由として自分よりも英語が上手い人と話すことでその人の良い所を吸収することが出来るからです。特に日本人以外の留学生と話すことはとてもいい経験になります。先生相手に英語を話すときはある程度文法がバラバラになってしまっても理解してくれることが多いです。しかし、留学生相手に話すときは全く通じない時があります。自分たちがそうであるように相手の文法が正しくないと言っていることが理解できない場面が生じてしまいます。そのことで文法を意識しながら話す練習をすることが出来ます。



## 授業内容

### Reading

Skimming, Scanning をはじめとして、どのように効率よく英語の文章を読んでいくのかを学びます。一番メインとなるセンテンスはどこにあるのか、どの単語が重要なのかなどについて考え練習します。主にペアになってなぜそれを選んだのかを根拠を明確にしながら話し合います。今までに習ってきた英語の読み方とは違う方法を学ぶことができます。

### Writing

毎日の課題として英語での日記を書くことが要求されました。それを週末に提出して先生によって丁寧に添削がされます。時制のミスや動詞と名詞の組み合わせ (collocation) など自分では気づくことが難しい箇所を説明付きで直してもらえるので、後で復習するときにとっても役に立ちます。またエッセイの書き方を細かく学びました。アカデミックな文章そうでない文章では何が違うのか、より文章にふさわしい単語など、エッセイを書く上で必要な要素を多く知ることが出来ました。200字や500字程度の長くてやりがいのあるエッセイ課題が出されることもあります。

### Speaking

先生から与えられた話題に対して何を考えるか、解決策はあるのかなどについてペアの人やグループになってディスカッションを行いました。聞いている相手を納得させる話し方、相手が話している内容が全くわからなかった場合の返答、相手が話している時にどのように会話に割り込むのかなどを学びました。

### Listening

youtube 動画や先生による文章の朗読などを聞きながらキーワードをメモする練習をしました。その後で周りの人と何についての文章だったのかなどを話し合います。ただ単語を聞き取って書くのではなく数学的な記号を用いたりするメモの取り方などを学ぶことができます。

### Presentation

最後の午後の授業で一人5分間のプレゼンがありました。話題は各々自由に選んでよくいかに聞いている人にわかりやすく、相手を納得させることが出来るかが重要なポイントです。三週間の授業で学んだことを総動員して準備をしなければならないのでとても良い勉強となります。

# Intensive Reading & Writing Course

システムデザイン学部航空宇宙システム工学コース二年 平岩佳奈

Intensive Reading & Writing Course は、その名の通り Reading スキルと Writing スキルを上げていくことを目的としたクラスでした。

## ●A.M Writing Lesson

エッセイの構成の仕方、接続詞の使い方、アカデミックな文章に適切な単語や不適切な単語、主語の選択、表やグラフの描写の仕方などを学びました。特にエッセイの構成方法は、コツや考え方まで丁寧に教えていただけました。しかし書いてばかりではなく、生徒同士で自分の書いた文章を発表しあったり、意見の交換をしたり、先生に自分の書いたエッセイを添削していただいたりと、得るものはとても多かったです。

## ●P.M Reading Lesson

長いアカデミックな文章を読むときの戦略として、スキミング(文章の全体の内容をさっと理解すること)、スキャンニング(文章の内容を深く理解すること)の練習、物事のプラスの面とマイナスの面の両方考えていく読み方、Key ワードや段落のファーストセンテンスの重要性を学びました。こちらも読むばかりではなく、その文章についてのディスカッションや、内容の要約なども行いました。

Writing & Reading の授業でしたが、授業はもちろんすべて英語なので Listening の勉強にも、Speaking の勉強にもなりました。クラスは日本人のほか韓国から来た人も合わせて 10 人で、みんな積極的に発言していて、とてもいい雰囲気でした。私も最初は先生の英語を聞き取るのに精一杯で、自分の言いたいことがぱっと英語で思い浮かばず、なかなか発言できませんでしたが、慣れてくるとだんだんその余裕が出てくるようになりました。例えば上手く言葉がつけなくてもなにか言うと、先生が細かく拾って正しい言い方を教えてくれるので、英語がぺらぺらに上手に喋れなくても大丈夫です。





## 1. 食

一般的に高くてもずいといわれているイギリスの食事、実際はどうでしょうか。

初日は寮の近くのフィッシュ&チップスの店で夕食をとりました。友人から貰ったチップスは、中が水っぽくあまりおいしくない。僕が頼んだケバブは、味が濃い上量が凄まじい。値段は高い。従来のイメージを踏襲する料理に、今後3週間の食生活を憂いました。大学での食事は、主に学食に頼りました。サラダとガーリックトースト以外は微妙な味。種類は少なく、タイ米のようなご飯や、妙な風味のするカレーのような物など、日本人には馴染みの薄いものばかり。サラダは皿の大きさで値段が変わることを知らず、初めのころは値段の変動する会計を不思議に思いました。学食以外の大学での食事として挙げておきたいのは、お昼時間に校門前にやってくる宗教団体が配る食事です。メニューは日によって変わります。ピンク色のカレーのようなものや、肉じゃがをすりつぶしたような何かがご飯のようなものの上にたっぷり乗ってきます。味は微妙ですが、食べられないわけではなく、無料でおなか一杯になるということで毎日学生が行列をなしていました。僕も2度お世話になりました。

こうして書いてみるとイギリスにある店の料理は総じて不味いと思われそうですが、ちゃんと美味しい店があります。特にイギリス料理以外の店は美味しいことが多かったです。あるブラジル料理店のハンバーガーはとても美味しく、サービスもよかったです。ビビンバを売る韓国料理の店も良く、日本人になじみ深い普通のご飯の味は皆の心を癒しました。また、コンビニやスーパーではそこそこの味のサンドイッチを手ごろな値段で手に入れることができるため、大にお世話になりました。

ただ、やはり全体的に言うと、食事では眉をひそめることが多かったように思います。ですが不思議と、そんな料理を期待している自分があることに気付きました。おいしくない料理に出会うたびに、イギリスにいることを実感し、うれしく思いました。

ただストレスは溜まってくるので、味噌汁などを日本から持っていくのを勧めます。

## 2. 寮

一見あまりきれいでない外見の Dinwiddy House (寮) ですが、中は比較的綺麗でした。セキュリティもしっかりしていました。寮の中庭に入るだけでも守衛室を通り計2回カードキーを通します。部屋に関しては、ある程度の広さがあり机も広く、清潔感がありいい感じ。Wi-Fiも利用できました。ただ、かけ布団と枕は用意されていなかったため、衣料品店で入手するまでは服を布団代わりにして寝ました。驚いたのが洗面所の構造で、トイレとシャワーが同じ床に設置されているためシャワーを浴びると床が水浸しになります。SOASの先生はイギリスでは一般的と仰っていましたが、自分にとっては不便で仕方がなかったです。キッチンと同じフラットの人と共用で、他大の学生と知り合うことのできる良い場でした。

## 3. 気候

僕たちが行った時期は日本に比べるととても涼しく、空気は乾燥していて、過ごしやすい気候でした。むしろ寒いと感じる日も多く、半袖のTシャツ1枚だと耐えられないほどでした。夜は七時になってもまだ日がでていて、時間の感覚がおかしくなりましたが、日中を長く過ごせるので好きになりました。日本に帰ってからこの気候をととても恋しく思いました。ただ寒い日は本当に寒いので、薄い長そでを何枚か持って行くことを勧めます。

## グリニッジ研修

“遂にやってきたロンドンでの初めての週末！！”と研修に参加した十人のメンバーは全員が思ったはずでしょう。その理由も踏まえて本題の前にざっくりと一週間目を紹介します。

初日には 12 時間という長いフライト、皆で夜に食べたフィッシュ&チップスへの衝撃、これから自分たちは生きていけるのかという生存の心配などがありました。二日目以降は、学校の授業の大変さ、生きるための夕飯の調達、有名場所への観光、朝と夕方の特別授業、授業に影響の出ない程度の夜更かし（遊び）など、ここには書き切れないくらいの出来事がありました。それによって全員の体は疲労困憊でした。そんな状況の中で迎えた週末はまるで天国のように感じられました。いわゆる日本でいう花金、通称“花の金曜日”。気が付いたら近くのスーパーでお酒を手を持ちレジに並んでいました。無意識って怖いですね。そんなことはさておき本題に戻ります。この週は嬉しいことになんと土曜日から月曜日までの三連休であり、月曜日はバンクホリデーという祝日でした。もちろん学校も休みなんで、そのバンクホリデーに私達はグリニッジへの課外活動が予定されていました。朝 9 時頃に寮の前に日本人ガイドさんが来てくださり全員で地下鉄に乗り最初の目的地である **Tower Hill Station** に向かいました。グリニッジに行く前にロンドン塔に行き、その壮大な外観を写真に収めたり雰囲気を感じ取ったりしました。ロンドン塔というのは昔、牢獄として使われていて王室階級の人やとても身分の高い人などが民衆に公開されないように内部で処刑されていたようです。また周りには王が好む動物などを飼っていたそうで今でもライオンや虎の銅像が置いてあります。ここで豆知識を一つ。ロンドン塔周辺には比較的多くのカラスがいます。カラスたちは観光客などに被害を及ぼすことがあると言われています。しかし、遠い昔にある言い伝えがありました。それは、もしカラスを駆除するとイギリスが滅びるんだそうです。そのことで今も駆除することなく飼育されています。ここまで紹介していたロンドン塔については全てガイドさんのお話です。決して筆者の知識ではないのでお間違いのないように。それからある程度ロンドン塔を見たところで近くにある観覧船のチケットを買いグリニッジに向かいました。なんとグリニッジに行くのに船に乗りテムズ川を下って行くのです。しかし、テムズ川の色は茶色くてなんだか汚く見えていました。メンバーの何人か（自分も含めて）は「テムズ川、本当に汚いよねー。下水とか全部流れていそうだよ。絶対入りたくない」などと最初は文句を言っていました。そのことを何の気なしにガイドさんに問いかけると予想もしなかった返答が来ました。「何を言ってるんだい。テムズ川の水はきれいだよ。ただ川底の土が茶色いだけで色がそうになって汚く見えるだけなんだよ」と。「テムズ川さん、本当にごめんなさい。」と率直に思いました。そんなことを話しているうちに観覧船は出航してテムズ川を下り始めました。船に乗りながらのロンドンの景色もまたとてもいいものであり歴史を感じることもできました。楽しい遊覧の時間も 15 分で終わってしまい、遂に最終目的地であるグリニッジに到着です。グリニッジといえばやはり有名なのは“旧グリニッジ天文台”でしょう。我々一行はそこを目指してトコトコ歩き始めました。天文台は高台にあり坂道を上らなければならなく少しばかり大変でしたが、到達してみるとそこから見える景色に感動して疲れなどすべて吹き飛びました。それから入場料を払い天文台の中を見学しました。そこには様々な形や、機能を持った時計が数多く展示されていました。緯度の測り方、日の計算方法などもありとても満足できるものでした。このような技術が生まれなければ航海の発展も起こらなかつたらしく、その他にも多くのことが現在なかつたらしくことを再認識して改めて昔の偉人達に感謝しました。「よくやってくれた」と。

それから天文台を後にして近くの公園でみんな一緒にお昼を食べて親睦を深めました。この時に私が買ったブタさん顔のグミは美味しかったです。見た目は可愛いですが騙されてはいけません。味はとても甘くて一つ食べたら十分です。ちなみにガイドさんおすすめの商品です。ぜひともロンドンに行ったら食べてみてください。お昼後はそれぞれ自由行動になりロンドンの街を散策しました。

このように、メンバー全員で見学をすることでそれまで話したことがなかったメンバーと会話でき、仲が深まり、かつロンドンを楽しむことが出来るという良いことばかりの日でした。またガイドさんもとても親切でおすすめのお店や場所など多くの役に立つ情報を教えてくださいました。本当に助かり感謝しています。

所々に関係のない内容が書かれているかもしれませんが、お許しください。読んでくださった方がロンドンに行く際に役に立つことが出来れば幸いです。最後まで読んで頂きありがとうございました。



画像：遊覧船からのロンドンブリッジ

# Our Favorite Places ~ぜひ訪れて欲しい場所をご紹介します♡

～

## ◆ British Museum

有名な大英博物館！SOAS からすぐ近いのでいつでも行けます。広いし色んなものがあるしで、行っただけで疲れてしまいます。超有名なものとか見たいものを絞って、それを目当てにして行くことをオススメします！

## ◆ Big Ben

英国国会議事堂の時計台。Westminster 駅を出てすぐのところにあります。有名な時計台なので、ロンドンに来た！という実感を得られます！ロンドン・アイから見た夜の Big Ben が綺麗でした。

## ◆ London Eye

ロンドンの大きな観覧車。20ポンド以上払う価値あり！夜に乗るのがオススメです。ロンドンの夜景が見渡せて大満足。近くにある London Dungeon はロンドンのお化け屋敷です。勇者は入ってみるべし。

## ◆ Westminster Abbey

ウィリアム王子とキャサリン妃が結婚式をあげたウェストミンスター寺院。私はあいにく行くことはできなかったのですが、訪れたメンバーが口を揃えていう一言、「やばかった」。きっと建物観光系では一番の素晴らしさです！

## ◆ Madame Tussauds

お台場にもある蝋人形館。ロンドン・アイと一緒にチケットを買うとお得です。休日はお昼頃からとても混んで並ぶので、あらかじめチケットを入手した上で、朝一で行くことをオススメします！有名芸能人からスポーツ選手、政治界の有名人やディズニーキャラクターまでと写真もとり放題。どれが人間でどれが蝋人形かわからなくなります！アトラクションもついているので、大満足できますよ♪一人人間のイケメンが混じっていることをお見逃しなく！

## ◆ Musical

私は Angel 駅の近くのシアターで West Side Story のミュージカルを見ました。4日前くらいにチケットをネットで購入しようと思ったら、既に満席。仕方ないので別日の空いている席を予約しました。1週間以上前に予約しておかないと希望日の希望座席は取れないそう。いろいろな購入方法があるので、事前に調べていってください。購入方法によっても値段は変わってきます！とっても楽しかったです！

## ◆ Oxford

ロンドンから列車で1時間40分くらい。当日でも列車の切符を買うことができます。オックスフォード大学で有名なオックスフォードですが、街全体が落ち着いていて建物にも街にも統一感があります。石畳の道には感動！歩けばいたるところに大学があります。「街全体が大学」という感じです。クライストチャーチにはハリーポッターのモデルとなった食堂があります！私もグリフィンドールに入りたい。展望台に登ってオックスフォードの街を見渡してみてくださいね♪

## Food

### ◆ Ben's cookie

とっても大きくてとっても美味しいクッキー屋さん。ぜひ食べてみてください！

### ◆ M&S

結構どこにでもあって、有名なスーパーですが、少し他よりは高かった気がします。でもその分質はいいのかも？

◆ **TESCO**

M&S よりはやいスーパーです。寮近くの **TESCO** には、陽気な警備員さんがいて楽しかった！

◆ **PRET**

SOAS の近くにもありますが、サーモンのお寿司が売っているカフェです。

◆ **EAT**

ここで売っているペットボトルのレモネード味のジュースがとっても個人的にオススメ(笑)

◆ **わさび**

日本の味が恋しくなったらここ！比較的どこにでもあります、寮から近い **King's Cross** 駅のわさびには数回お世話になりました。**THE** 日本のカレーが食べられます。でも、量が多いので女の子は二人で一つがオススメ。

◆ **Japan Centre**

ピカデリーサーカスにある日本人食品専門店。結構高いですけど、どうしても日本のものが食べたくなったらここへ来ればなんでもあります。私は納豆とご飯を買いました(笑) インスタントお味噌汁とお茶を日本から持参することをオススメします！

**Commodity**

◆ **PRIMARK(@marble arch station)**

比較的どこにでもあるお店。低価格で洋服や日用品が売っています。激混みのときも！ほとんどのメンバーがここで毛布や枕を手に入れました！安くて可愛いものが多かった！1.5 ポンドのトートバッグはお友達のお土産にもなります♪

## ～個人感想～



都市教養学部都市教養学科理工学系生命科学コース

1年 安次嶺 良太

私はこの研修に参加してとてもいい経験をする事が出来ました。その中でも一番に挙げることが出来るのは、英語力不足とそれに気づけなかった自分の未熟さの二点です。ロンドンに行ってSOASの授業を受けるまでは、“並大抵の人より英語は出来るだろう”と勝手に思っていました。しかし、そのような腐った自信は見事なまでに粉々に粉碎され異国の地ロンドンにて散りました。なんて浅はかな考えだったのだろうかと後悔しています。初めに相手の言っていることが理解できなくて会話にならないという苦しさを知り、その後で自分の言いたいことが上手く言葉にならないという自身の力不足を経験しました。SOASの授業内容は私にとって新鮮であり、テキストの内容は基礎的なことから発展的なことまで広く網羅されて多くのことを学ぶことが出来ました。これから英語を学んでいくうえで何に焦点を当てていくべきなのかなども知れました。また英語において上には上がいることを改めて痛感できるいい体験でした。観光に関しては初めての海外だったので多くのことに感動して普段はあまり撮らない風景を写真に収めました。長いフライト時間に関しても不安でしたが行きに映画を4本見たら約8時間経っていたので全く苦痛になりませんでした。そして共にロンドンに行った9人の仲間感謝しています。私はいつも話しながら後ろから付いていくだけの人間でした。いわゆるピクミンです。それでも見捨てないでいてくれて一緒に行動をしてくれた仲間がいて本当に助かりました。そしてもし来年このプログラムに参加したいと思っている人がいるのであれば、ぜひとも積極的に参加してみてください。





システムデザイン学部システムデザイン学科経営システムデザインコース

2年 榎本 大地

自分がこの研修に参加した目的は、英語に対する苦手意識の克服の為でした。今まであまり真剣に英語に取り組んでこなかったため、どこかで意識改善の場が欲しかったわけです。そんな折にこの研修の存在を知ったのが、この研修に応募したいいきさつでした。最初はどうせ選考で落ちるだろうと思って気楽に構えていたのですが、まさかの連続で選考をパスしてしまい、晴れてロンドンへ行けることになりました。しかし、そこからが苦労の連続でした。忙しい合間を縫っての事前研修に、高額な費用の問題や経験のない海外滞在の準備などなど... 夏休みも今回の費用を稼ぐためにアルバイトがかなりタイトなスケジュールで入っており、渡航前はなぜこんなに忙しいのかとイライラしていました。しかしいざイギリスに行ってみると、荘厳な建築や日本とは違った街の雰囲気魅了され、日本にいた時の鬱憤もどこかへ行ってしまいました。休日には憧れだったウインブルドンやアビーロードに行き、平日にも授業後には可能な範囲で色々なところを回りました。勿論夜には授業の宿題を寝る間を削ってやる必要がありましたが(笑) ただしすべてが楽しいことばかりでもありませんでした。やはり英語力の不足は否めず、SOASでの授業はついていくのが非常に大変でした。徐々に慣れてはいったものの、研修が終わった今でも劇的に語学力が向上したかといわれると首肯はできません。ただし、この3週間必死で取り組んだことはこれからの学習にあたっての大きいにモチベーションになりました。さらに今回の研修で知り合えた9人のメンバーと過ごしたことはかけがえのない一生の財産になりました。たかが3週間、されど3週間。この夏は自分を大きく変えてくれた気がします。



都市教養学部 都市教養学科 経営学系

3年 佐原 直樹

重厚な歴史を感じさせながらも、最先端のトレンドを発信する街、ロンドン。私たちはこの夏、そんな魅力溢れる大都市で多くのことを経験し学ぶことができました。今振り返ってみると、単なる語学力向上のための研修ではなく、様々なことを学び成長することができた研修であったと思います。

とは言ってももちろん語学力も確実に伸ばすことができました。3週間という短い期間であったため飛躍的に向上することはありませんでしたが、SOASの充実したプログラムによって語学力を高めることができました。特にリスニングのスキルの向上は身をもって感じることができました。最初は全然聞き取ることのできなかつた授業も、回数を重ねるうちに聞き取れるようになりました。「日本でも英語は学べるじゃないか」と言う人は多いですが、今回の研修のように毎日英語漬けの生活を送ることは英語学習において非常に効果的であると感じました。またSOASには英語を学ぶコース以外に英語で科目を学ぶコースもあります。(今回はビジネスのコースを選びました。)このようなコースは「英語を学ぶ」のではなく「英語で学ぶ」ことができるので、特に交換留学などで長期の留学を考えている人には、非常に有効であると思います。

また大学生活だけでなく、休日にロンドンやイギリス各地を観光したことで学んだことも多くあります。イギリスの持つ長い歴史や独特の文化に触れることができ、多くの博物館や美術館ではイギリスだけでなく様々な国々の文化や歴史も知ることができました。外国の文化や価値観に触れることで異文化を理解し、教養を深めることができたのはとても貴重な経験だったと思っています。

そして多くの人との出会いもありました。授業を通して志高い同世代の仲間とのつながりを作ることができたのは、これからの人生において大きな財産となったと思います。彼らと単に友達になるだけでなく、お互いの考えや将来について話すことで、これからの人生における活動や勉強へのモチベーションを高めることができました。またこの研修に参加した首都大生との出会いも非常に貴重なものになりました。各々学年も学部もバラバラですが、将来に向かって頑張っている仲間が同じ大学内にいるということ知れたことは大きな励みになります。

3週間という短い期間ではありましたが、今回の研修を通して私たちは非常に多くのことを得ることができました。様々な出会い、様々な経験を通して一人の人間として成長することができたのではないかと思います。また今回の研修は自分を見つめ直し、将来を考える大きな機会にもなりました。今回の研修での経験を、今後私たちの大学生活、そして将来において大いに活かしていきたいと思っています。

最後になりましたが、このような好機を与えてくださった国際センターの方々、先生方、SOASの皆さん、そして両親に感謝しています。ありがとうございました。



都市教養学部都市教養学科人文社会系社会学コース社会人類学分野

2年 小澤 英賢

「たかが3週間されど3週間」この短期英語研修を通して、様々なことを経験し、様々なことを考え、様々な思い出を作り、今後の学生生活に生きるであろう本当に様々なことを吸収できたと強く思います。1週目や2週目は、早朝からの英語の補習授業、ほぼ半日に渡る難易度の高い英語の授業、週末のほぼ終日に渡る観光、慣れない生活による風邪等々で、寮に帰ったらとりあえず布団の上で寝る、そんな生活サイクルの繰り返しでした。しかし、最終週には、観光への異常なまでの情熱は消え始め、授業のサイクルにも慣れ、他国からの留学生とも仲良くなり、毎日学校に行くのが楽しみで仕方がありませんでした。あたかも故郷の日本で暮らしているようで、すっかり現地の環境に慣れてしまったという感じです。最終日にプレゼンが控えていたため、最終週はその準備で終わってしまったようなもので、わかってはいましたが、本当に3週間が短く怒涛のように過ぎていってしまったなと感じています。正直なところ、現地の生活に慣れ始めたのにもかかわらず、すぐに帰国しなければならないということが本当に辛かったですし、もう楽しい友達や先生とも会えないと思うと涙が出そうなくらいに寂しかったです。このような充実度120%の研修が提供できるのは、太田先生をはじめとした国際センターの先生方、留学準備講座を開講してくださった、神田先生、ブロック先生、近畿日本ツーリストの関係者の方々、Matt先生をはじめとしたSOASの先生方、現地ガイドの方、そして研修参加者の仲間や現地でできた仲間たち等々、数えきれないほどの温かいバックアップがあってからこそだと思います。本当にありがとうございました。この研修で終わりではなく、今後の学生生活に存分に生かすことで恩返ししていきたいです。



都市教養学部都市教養学科理工学系物理学コース  
1年 清水 貴勢

イギリス研修を思い返してすぐ浮かんでくるのは、楽しかった思い出です。多くの観光地を楽しみました。大英博物館に行き、山のような展示品の数々に驚きました。ウェストミンスター寺院では、スケールの大きさ、内装の美しさに深く感動しました。また、日本と全く異なるロンドンの街並みは常に新たな発見を与えてくれるし、歩行者の信号無視当たり前な文化なども興味深かったです。微妙な味の食事についてメンバーと共に談笑したのも、良い思い出となっています。それらの様々な経験から、日本との文化や環境の違いを体感することができました。

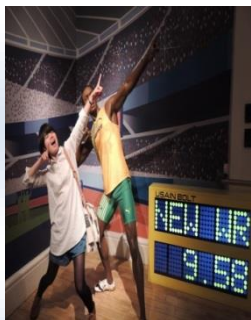
しかしながら、今挙げたことは普通にロンドンを旅行すれば体験できることです。僕が一番貴重だと感じたのは、SOASでの経験です。何故高い費用を払ってまで、観光の時間を削ってまでSOASで学ぶのでしょうか。SOASの短期研修を、今後挑戦するであろう長期留学の予行練習として位置づけたとき、その理由を見出すことが出来ました。

授業では、語学の壁や、イギリス独特の内容、様々な国の学生の授業での高い積極性と熱意を感じたし、また英語での質疑応答やプレゼンテーションの方法を学ぶことが出来ました。学生寮では、他の学生との付き合い方や、日本にはないシステムも学びました。これらの経験から、自分の今後の課題を沢山発見することができたし、また同じような経験をしたとき、戸惑わなくてすむようになるはずです。

短期留学では戸惑いは楽しみでもありますが、長期になれば、それはストレスとして溜まっていくかもしれません。イギリスは勿論のこと、他の国に留学したとしても、これらの経験は必ず役に立つはずで、普通に旅行したのでは得られない経験が、SOASの短期研修で得られたと確信しています。



Environment and Development の Lecture 担当の先生と



システムデザイン学部情報通信システムコース  
2年 筒井 彩乃

今回のロンドン研修を一言でいうと、「刺激！」でした。はじめてのヒースロー空港（本当は小さい時に行ったことがあるけれど、記憶にないので初めてということにしておきます）、はじめての寮生活（しかも海外）、はじめての海外のお友達、はじめての、、、と、はじめてを挙げたらきりがありません。そんな「はじめて」たちから学んだこと、感じたことは多くありました。例えば、日本人らしさ、自分の未熟さ、ロンドンの街と日本の街の違い、などなど。ロンドン滞在中は、楽しいことばかりだった気がしますが、思い返してみれば辛かったこともありました。考えさせられることも多く、気を落としながら大学から寮まで帰ってきたこともあります。同じコースの首都大の友達と「私たちって未熟だね」と何回反省会をしたことでしょうか。聞かれても答えられないことに、とても辛い思いをしました。「日本語でも答えられないのに！英語でなんて無理だ！」と思う場面も多かったです。But！！これはとてもいい経験。なぜなら、私たちは本当に小さなコミュニティで、小さな世界で、小さな規模で生きていたことに気付くことができたからです。世界には外も内もありませんでした。SOASのロンドン研修は、英語力を伸ばすためだけのプログラムではありません。自分自身を見直すきっかけを与えてくれます。

首都大メンバー10人は、この三週間を通してとても仲良くなりました。一週間で不安は吹き飛び、毎日がスペシャル！今では9人みんなのことが大好きです。真面目な話も馬鹿な話も一生懸命できる仲間に出会えたなと個人的にはおもっています。笑顔の絶えない日々でした。

最後に一言。親の言うことは聞いておいたほうがいい。もしロンドンに行く前に言われたことがあれば、忠実に守っておいたほうが良いですよ。やはり、親は偉大でした。



都市環境学部都市環境学科建築都市コース  
二年 ハイリス

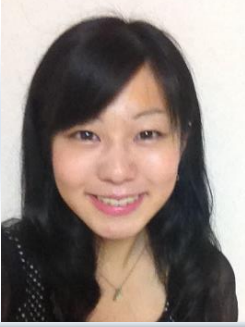
イギリスでの研修は私にとって貴重な体験だと思います。自分が選択したコースは他のコースと比べ、外国人の学生が多く、英語を使う場合が多いでした。このため、自分も日本にいるときより英語で話すのは自然になって来ました。授業の方もイギリスと日本はかなり大きな違いがあります。海外の授業は自由で、先生を呼ぶ時、「先生」ではなく名前で呼ぶのはイギリスに行く前にも知っていますが、実際に体験してみて、最初の方はやはり違和感を感じ、なかなか先生の名前を直接に呼ぶのが難しかったです。

授業の方は内容が充実で、色々なことが勉強できました。普通の講義の後に復習があり、講義中に出た単語や自分が聞き取れなかった部分を先生とグループメンバたちと議論しながら解決します。このような授業の形は日本にあまりありませんので、とても勉強になりました。セミナーで自分の意見を話したり、他のグループメンバたちの意見を聞いたり、先生は最後にまとめる形で、自分の考え方のみならず、自分が思い出せなかった他人の考え方も聞け、これで、自分の知識がさらに広がっていけました。

自分のコースの勉強については、学ぶ前より環境というテーマをもっと深く理解できました。授業に受ける前に環境と発展との関係を分かれて考え、しかし、この二つのことはかなり緊密な繋がりががあります。これについても、講義やセミナーを通じ、理解できました。この研修は自分の今後の勉強にはとても役に立つと思います。



Environment and Development の先生と学生と



都市教養学部人文社会系 教育学コース  
2年 藤井 優美

ロンドンでの三週間は、あっという間だったようで、たくさんの人に出会い、いろいろなことを感じ、考えた三週間でした。

わたしはメディアのコースを選択しましたが、そこで1番実感したのは、世界の政治や歴史についての自分の知識が本当に浅いということでした。授業で様々な映像を見せられても、そこから自分の意見が生まれず、何度もはがゆく悔しい思いをしました。知らないでも生きていけるかもしれないけれど、知ることによって自分の見識が広がり、新しい目で世界を捉えることができるようになると思ったら、もっと様々な事柄に目を向けてみたくなりました。そういう意味でも、SOASでの授業は私にとって毎回刺激的なものでした。

授業は補講もあって想像以上に大変でしたが、その一方で観光もたくさんすることができました。首都大のみんなが計画してくれて、いろいろなところと一緒に出かけられて、とっても楽しかったです。ロンドンは、少し足をのびしてバスや地下鉄に乗ると、かわいいお店がたくさんあったり、博物館やアミューズメントパークがあって、短い時間でも存分に楽しめる場所でした。ロンドン郊外に出れば、オックスフォードやケンブリッジなど、静かな時間が流れた素敵な街に行くこともできて、どんなに時間があっても足りないように感じました。

今回、首都大の優しく個性的な仲間たちと、充実した日々をロンドンで過ごすことができて、忘れられない三週間の研修になりました。



都市教養学部 都市教養学科 理工学系 機械工学コース

1年 藤田 駿

将来に近づくチャンス。これが、今回の研修で得られたものです。

SOAS での授業は、自分が将来解決に携わろうとしている環境問題について新しい視点からじっくり考え直すよい機会となりました。以前は、環境に負荷をかけない技術の新たな開発は、環境問題を解決する上で不可欠あると考えていました。そんな中、SOAS での授業を通して、人類の幸福という全く新しい観点から、環境問題を考察する機会が得られ、今まで通りに環境技術の開発をしているだけでは、環境問題が本質的には解決されないという、新しい気づきを得られました。ここで学んだこの視点は、機械工学を専門として将来活躍する上で大いに役立てることが出来ると確信しています。

また、自分の未熟さを体感する機会も得られました。すべて英語で行われる授業では、教授の講義を受けるだけでなく、生徒、教授と共に議論も行います。議論の内容は非常に高度なもので、頭の中で自分の意見を整理しているうちに議論は先に進んでしまい、ついていくのに非常に苦労しました。この授業を通じて、英語力だけでなく論理的に意見をまとめて発言する力が求められていることを学びました。他にも、異文化を理解する力など、自分がまだまだであることを普段の生活を通じて実感しました。議論を取り入れた授業や異文化圏での生活は、日本にはなかなか経験できない貴重なものであり、今後の勉強に対する強いモチベーションとなりました。

3週間という短い期間での留学でしたが、新しい知識やモチベーションを得たことで、将来に近づくチャンスをいただきました。ここで得た知識やモチベーションは行動に起こしてすぐに活かしたいと考えています。

最後に、今回の研修の準備をしてくださった、国際センターの方々。事前学習のために、授業をしてくださった先生方。現地でお世話になった、SOAS のの方々。そして、一緒に参加したメンバーに感謝したいと思います。ありがとうございました。





システムデザイン学部システムデザイン学科航空宇宙システム工学コース

2年 平岩 佳奈

ロンドンで過ごした3週間は、私にとって新しい経験ばかりで、とても充実したものになりました。まず、ロンドン大学の授業では、日本の違う大学の子や韓国から来た子などと一緒に英語を勉強することができました。初めの方は、先生の授業が全く聞き取れなくて、悔しい思いをしていました。でも集中して耳を傾けているとだんだん聞き取れるようになっていき、自分の成長を感じることが出来てとてもうれしかったです！また、先生が質問を投げかけ生徒が自主的に答えるという授業形式だったのですが、みんな積極的に発言していて、先生も細かく拾ってくれるので、とても居心地がよかったです。それと同時に自分の言いたいことをうまく英語で伝えられず歯がゆい思いをしたことが多くあって、これから先の英語の学習に対するモチベーションも上がりました。

日々の生活や、フリータイムを使つての観光もとても楽しいものでした。授業後や土日を使って、TMUのメンバーでバスや地下鉄を駆使してロンドン市内の観光名所を回ったり、オックスフォード、ケンブリッジ、グリニッジまで出かけたり、いろんなご飯を食べに行ったり、ロンドンの地元の人を使うスーパーや安い服が売っている店で足りない日用品を買ったり、イギリスの良いところも悪いところもたくさん知ることができました。ロンドンの皆さんはにこやかで、地下鉄で隣に座ると喋りかけてくれるほど気さくな方も多く、私は住みたいと思うほどロンドンが好きになりました。イギリスで一番美味しかったのはアフタヌーンティーで出されたスコーンとクロテッドクリームとミルクティーでした。本当に美味しかった、また是非食べたいです！

夢のような3週間でした。一緒にロンドンに行き苦楽を共にしてきた10人のみんな、サポートしてくださった先生方、ありがとうございました。この研修に参加することができて本当によかったです！



クラスのみならず！



ロンドンの夜景、すばらしかった！